西洋絵画（３）

東根市所蔵　武田靖夫作≪牧童≫の保存修復

米田奈美子 YONEDA. namiko／文化財保存修復研究センター専任研究員・講師
長峯朱里 NAGAMINE. akari／文化財保存修復研究センター嘱託研究員

図１．修復前

図２．修復後

第一章　作品概要

○作　者：武田靖夫
○作品名：牧童
○寸　法：1305mm×1630mm　100号　F型
○材質技法：油彩／布（ジュート）
○署　名：黒絵具　画面右下「Y.TAKEDA」
○付属品：額
○額寸法：1570mm×1888mm×64mm

第二章　損傷状態

全面油絵具での描画で、半透明～不透明の絵具を使用している。様々な幅の筆を用いて絵具が重ねられ、分厚い絵具層となっている。粘度の高い絵具を使用した後、褐色の薄く溶いた絵具を使用するなど、多様な表現方法を取っている。キャンバスの布目を生かし、岩のような凹凸のマチエールを作っている。長年立てられたまま保管されていたため、砂のような粒状の埃汚れが表面の凹凸の上部に溜まっており、全体的に埃の付着が見られる。

全面の亀裂と亀裂に伴う浮き上がりが２～３mm程度のサイズの剥落が数か所観察された。亀裂は地塗り層も含まれており、絵具層間の固着は強いが支持体との固着力は場所によって弱い。亀裂は乾燥時に発生したものと、支持体の動きによって経年で発生したものの両方がある。牛の角のハイライト部分には、虫糞と思われる付着物と液体が見られた。

絵具層の剥落と共に地塗り層の剥落も見られる。特に四辺の折り込み部分に亀裂と剥落が生じていた。支持体が柔らかいことで固化した地塗り層が割れやすく、固着状態も良くないため、剥落が発生しやすい状態である。

本作は保存箱の無い状態で長年保存されていたため、裏面の埃汚れも著しい。素材のジュートの毛羽立ちが多く、埃を集めやすいところに原因が伺える。支持体の目が粗いため、画面上にも数多く穴として見られ、裏面には地塗り層が滲出している箇所も散見される。

木枠の右上接合部に割れと欠損が見られるが、木枠自体の強度に問題はない。

第三章　処置方針

作品の状態などの観察から、以下の処置方針を立てた。

・作品の亀裂や剥落が目立っており、鑑賞の妨げとなる部分も見られた。これらを膠水溶液で接着を行い、絵具層を安定させる。
・絵具層剥落部に充填補彩を行い、作品の鑑賞性を向上させる。
・本作品は額より高さがある状態である。この状態は平置きした場合作品に負荷がかかり、更なる損傷を招く恐れがあるため、額の泥足の高さを調節し、作品の保管環境を改善する。
・吊り金具、釣り紐を交換する。
・修復時に使用するものはすべて可逆性のあるものを使用する。

第四章　修復処置

処置方針を踏まえ、以下の処置を行った。

1．修復前の写真撮影、状態調査を行った。
2．額から作品を取りはずした。
3．画面の埃・汚れを刷毛を用いてドライクリーニングした。
4．亀裂や剥落周囲の絵具層の浮き上がり箇所を膠水を用いて接着強化した（図３）。
5．裏面の埃汚れを筆、ミュージアムクリーナー、で除去した（図４）。
6．亀裂と剥落部に、石膏と膠の充填材を筆で塗布した。乾燥後、メスなどで削り、周囲に合わせて整形した。
7．充填箇所を、周囲の色に合わせて、水彩絵具とアクリル樹脂絵具で補彩した。
8．額縁に泥足を作成・接着した（図５）。
9．額縁にシーリングテープを貼り、入子部分にはフェルトを張り付け、額当たりを緩和させた。
10．ステンレス製T字金具で作品を額に固定した。
11．新規吊り金具、吊り紐を設置した。
12．修復後の写真撮影を行った。

第五章　まとめ

作品の亀裂や剥落を接着したことにより、作品の安定性が向上した。画面全体に見られた埃汚れの付着や剥落は、本修復によって画面が全体的に明るくなり、鑑賞性を回復することができた。加えて、作品よりも短かった額の泥足は、高さを調節し裏板を入れ、作品の保管環境を改善することができた。本作は従来の亜麻キャンバスではなく、ジュートを縫い合わせたものを使用している。本作品のようにジュートを使用した例は日本では多くは見られないが、今後、近似作品の修復の場合の有用な所見を得ることができた。

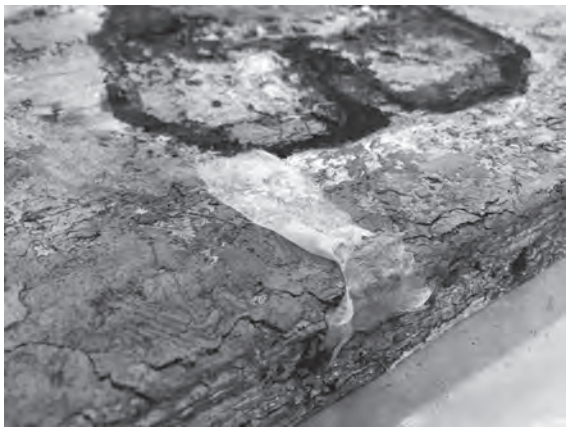

図３　典具帖を使用した亀裂接着強化

図４　裏面清掃

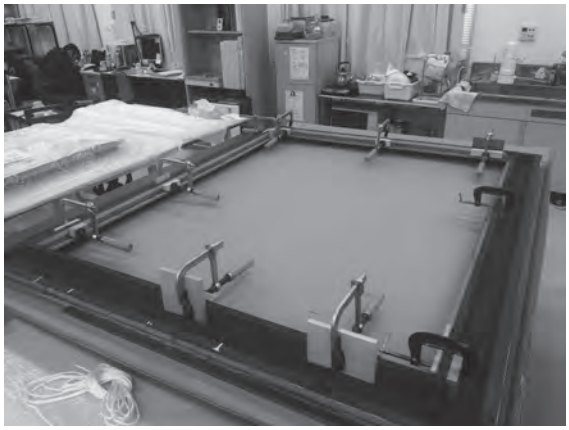

図５　泥足接着